

第3回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成25年12月26日（木）14時00分～15時40分

場所 鎌倉市役所 第3分庁舎1階 講堂

出席 深野会長、亀山副会長、浅川委員、久保田委員、大道委員、奴田委員、橋詰委員、波多辺委員、保坂委員

<事務局>

環境部 石井部長、小池次長、松永次長、川村次長

資源循環課 小澤担当課長、谷川担当課長、瀬谷課長補佐、佐藤担当係長、奥貫担当係長
安倍主事、片桐職員

環境施設課 小柳出課長、斉藤担当係長

環境センター 遠藤担当課長、佐藤担当課長

ごみ減量・資源化推進担当 松井担当主査

傍聴者 11名

- 議題 1 戸別収集・有料化について
2 最適な資源化のあり方に関する評価について

議題 1 戸別収集・有料化について

深野会長：質問等いかがでしょうか。

波多辺委員：有料化を先に実施してはどうかということですが、クリーンステーション（以下CS）を置いたままで有料化をしても仕方ないと思います。戸別収集とセットで行ってこそその有料化です。ここで失敗するわけにはいきません。CS収集では、不法投棄は当然出てくるはずですが、それを収集せざるを得ないのであれば、きちんと出している方との平等が保たれません。市民や議会の理解を得ながら、同時実施をしなければいけないと思います。有料化を先行実施することは混乱を招きます。燃やすごみを少なくし、どうしても処分しなければならないものを処分する施設をつくるということです。ここでつまづく訳にはいきません。あくまで同時に始めるべきです。小規模事業者の収集の対応も変わってきます。同時にできるように何とか努力するしかないと思います。

深野会長：ありがとうございます。協力を得ながら、同時実施をすることが条件だというお話です。他の方のご意見は如何でしょうか。

大道委員：実施方法のところ、アパート専用の収集所の設置とあります。私が経験したことです、住民、あるいはパトロール体制を構築したうえで、時間を決めてお当番の人がパトロールするということがあります。そういう対策を取り、住民の理解が得られれば先行実施も可能であると考えます。

深野会長：パトロールなど行っていけば、集合住宅の収集も大丈夫だということですね。

石井部長：20戸以上の規模の集合住宅では、必ずCSを設置することになっています。専用のCSを作ることで、意識を高めていくことはできると思います。

深野会長：20戸以上の規模の集合住宅では、専用のCSを必ず作るということですね。

波多辺委員：戸別収集についての意識付けをしていかなければいけないと思います。慣れてもらうために、少しずつ範囲を広げ、慣れたところで有料化となるのが良いと思います。自己責任が明確に

なり、ごみの減量が可能になります。試験的なことが必要になるのではないのでしょうか。

深野会長：戸別収集の範囲を広げていって、最後分かりやすいところで、有料化するということですね。現状を考えてみて、同時実施がままならないというのであれば、次善の策としてよいのではないのでしょうか。

亀山副会長：財政に余裕のない市が、新たなサービスを始めることによって、さらに財政が厳しくなります。第三の案として、足の不自由な方など希望者のみ戸別収集をするというのはどうでしょうか。全国的に見た場合、同時実施は少数派です。有料化だけを実施している市を見てみて、不法投棄でどれほど困っているのか確認する必要があると思います。私の住んでいるつくば市は有料化のみです。CSに変な出し方をすると、近所の噂になります。鎌倉市は意識の高い方が多いので、そんなに心配する必要はなく、有料化を先行してもよいのではないのでしょうか。

深野会長：事務局で把握している中で、CSで有料化を行っている例はありますか。

谷川担当課長：いくつか調べたところ、北海道で本市と似た水準のところが多いのですが、苫小牧市や札幌市で有料化のみ実施しています。ごみパト隊のような指導員を多く配置して、管理体制をしっかりやることで、不法投棄に対応しています。戸別収集・有料化に造詣の深い東洋大学・山谷教授によると、収集指導員やパトロール、CSの分割を促すなど事前の対策をある程度やるのが、上手くいく要因になるということです。不法投棄をしにくい状況を最初に作っておくことが大切です。

奴田委員：最初は、戸別収集が先行し、有料化という方針でした。しかし、セットで実施という方向性が既に出ています。別々となると、また出直しになり、予定が遅れることになります。

深野会長：おっしゃる通りかと思います。先ほど申し上げました通り、審議会としては、セットで実施というのが答申の考えになります。一方で、減量が差し迫った課題であるということがあります。私の意見ですが、何とか一步踏み出したいとなると、議論することが必要ではないのでしょうか。補足政策をすれば、何とかできるかもしれないという状況だと思います。

浅川委員：私は後から参加しましたので、有料化の議論はさておき、5月に再構築した基本計画を見ると、今泉クリーンセンターの停止が決まっています。減量は差し迫った課題であり、あと何ができるかという時に、有料化が出てきたと思うのです。自前では処理できないと、他に処理を依頼しなければなりません。そのことが可能になるのか、可能だとしても不安定な状況になります。議会も含めて、そのことを理解して頂いて、これしかないということを理解してもらう必要があります。反対の方には説明をしていくしかないと思います。

深野会長：非常事態に際して減量をしていかなければいけないということです。

久保田委員：反対するわけではありませんが、ごみの問題は行政がするべきだと思います。しかし、今度は行政が引き受けるだけでなく、市民が負担するということだと思います。もっと分かりやすい説明が必要だと思います。それができていないので、反対の声が挙がるのだと思います。文学や歴史に造詣が深い人でも、ごみ問題については、ごみネットはどうするとかそういうレベルになります。分かり易い説明を本気になってやらなければならないと思います。

深野会長：住民には説明し、理解を求める必要があるということです。これから説明会もありますね。

石井部長：今回26回の説明会を開催し、1,500名程度の方が参加されました。そこでもご説明しましたが、なぜ戸別収集・有料化が必要かという点で十分ではなかったかもしれません。これからどう対応・説明するか考えていく必要性があります。鎌倉市のごみ行政の中での戸別収集・有料化の位置付けという形で示せばよいと思います。

橋詰委員：戸別収集は独特で分かりにくいです。個人情報に関する部分、モラルに関する部分、お金の

かかる部分といろいろあり、ステップの取り方としては、住民に対する分かり易さということになります。急いでごみを減らさなければいけないということになると、同時実施か分割かと議論が戻ってしまいます。どこまで理解してもらえるかにかかっていると思います。

保坂委員：広報や説明会はかなりされていると思います。80年代に消費税が導入されたときに、テレビで報道され、容認されました。あの時はすごい反発でしたが、暫くしたら、それは必要だということになりました。藤沢市では有料化が理解されています。パブリックコメントとか議会では、戸別収集の方に意見が出ます。減量化のためには有料化は仕方ないと思います。学生に聞いてみたのですが6～7割は反対でした。有料化をやった後に「戸別も」という声が出てきたらプラスしていけばいいのではないかと考えます。

深野会長：実施してみても変わるということはあると思います。議論が堂々巡りになっているというご指摘はそうだと思います。段階的に有料化を検討する、セットで行うなどありますが、その目的は同じだと思います。この審議会で答申を出した内容がありますので、次は2月議会となります。十分な説明をしてもらいたいというのが共通した意見だったと思います。

奴田委員：クレームを付けたり反対意見を言う人はいるが、賛成している人は何も言いません。市に直接意見を言うのは何十人程度だと思います。それを気にしていたら仕方ないと思います。実施時期を見直すことで、どんどん長引いています。意見に惑わされず、理解を得てもらうために、引きずっていくような内容で説明しなくてはならないと思います。12月議会に提案できなかった上に、実施時期を見直すというのは気になります。

深野会長：賛成意見も当然あると考えられるわけで、十分話すようにするしかないと思います。先ほども言いましたが、審議会としては、十分な理解・協力を求めるということで、まとめたいと思います。

石井部長：協議をし、市民に説明を行っていきたいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。

議題 2 最適な資源化のあり方に関する評価について

深野会長：市民意識が重要ではないかということです。ご質問ありますか。

大道委員：アンケートの内容は前回と一緒ですね。これに関して提案があります。市民対象のものだと思いますが、ごみ出しに従事している人は世帯に1人程度だと思います。世帯の状況の中で、ごみ出しを担当している方にアンケートに答えてもらう、担当していなければそれを回答してもらうのが良いと思います。ごみを分別している人でなければ、本当の問題が挙がってこないと思います。ごみの問題については、関わっている人の生の声、そうでない人は別の意見があると思います。その点を取り入れて欲しいと思います。

小澤担当課長：アンケートは、分別に対しての市民の意見を短刀直入に聞こうということです。ごみ出しに関わっている人に答えてもらうという方向でよいでしょうか。

大道委員：その方法でも良いかと思います。

深野会長：その他の人に意見を聞いても良いと思いますが。

大道委員：ごみ出しをしているか、答えてもらう方法でもよいと思います。

久保田委員：ごみの種類によって担当が違う場合もあるでしょう。

大道委員：何かの形で分かればよいと思います。

浅川委員：無作為に抽出して、市民の方の意見を聞こうというものなので、それを踏まえたうえで、関わっている人とそうでない人の意見の違いはどうかということも必要だと思います。

大道委員：どのような形でよいと思います。ごみ出しを担当している人なのかどうかかわればよいと

思います。

保坂委員：担当しているかどうか二分できないと思います。どの家族でも何等かの形でごみに関与すると思います。問2についてうまく利用したらよいと思います。

深野会長：世帯の人数もありますので、その辺を活用すればよいと思います。

小澤担当課長：参考にさせて頂いて、事務局でもう一步考案したいと思います。ありがとうございます。

波多辺委員：空いているスペースに鎌倉市のごみの状況を記載して、現状を理解してもらうということに使ったらどうでしょうか。

深野会長：4ページ目のところですね。

佐藤担当係長：こちらの方には趣旨等書くつもりですが、状況を書くことも検討したいと思います。

橋詰委員：資料2-2(2)で、市が資源化の契約を行っている範囲までとありますが、その理由は何ですか。

安倍主事：ミックスペーパーは笛田リサイクルセンターに行き、静岡県の製紙工場に行き、トイレットペーパーになります。しかしながら、その先は売却されていくので排出量の把握ができません。温室効果ガス削減の計画の中では、市外に出てしまったものは、カウントしない考えもありますが、今回はサーマルリサイクルの過程とマテリアルリサイクルの過程との比較であるため、市外に出た後の排出量も把握したいと考えています。しかしながら、市が関与していない売却先は追いきれないところがあるので、契約先までは追いかけるということになります。

橋詰委員：残渣の話ですが、紙の資源化の場合、委託先での残渣を考えることになります。資源化量を言えばいいというのは違うと思います。残渣として独立したものとあります。単純に資源化ということ言えばいいということではないと思います。

安倍主事：残渣の考え方は大変難しく、先程の例をとると、売却する前の製紙会社に渡すまでの残渣は計算できます。しかしその先は、資源化の過程で原料に薬物等を添加することで量が増えたり、鎌倉市が委託している紙以外の紙も一緒に資源化しているため、製紙会社における残渣を把握するのは困難であると考えます。そのため、資源化率の残渣の考えとしては、選別・破碎した時の残渣を計算することになると思います。他の考え方があればお伺いしたいと思います。

深野会長：いろいろな考え方がありますが、現実的に考えれば、測れるかどうかが問題になります。

橋詰委員：委託して、資源化された後どうなっているか、ある程度把握されていればよいと思います。委託先でどんな流れになっているかわからない状態ではまずいと思います。

深野会長：渡した先でどうなっているかわからないのではまずいということですね。

安倍主事：廃棄物処理法に基づき、売却以外は年に1度は視察することになっていますので、処理過程がどうなっているかは把握しています。環境負荷に関して、処理過程の中で何が考えられるかについては、今後も検討したいと思います。

深野会長：他にご意見ありますか。では、資料2については、了承したいと思います。これで最適な資源化のあり方に関する評価項目に関しては終了させていただきます。

以上